令和５年度学校運営連絡協議会実施報告

東京都立竹早高等学校

1　組織

(1) 東京都立竹早高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成　　副校長、総務部主任（事務局長)、経営企画室主事　　計３名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路・探究部主任　総務部主任
計７名

(4) 協議委員の構成

保護者代表１名、同窓会代表１名、近隣中学校長２名、近隣専門学校長１名、大学教員１名、
地域公共機関代表２名、　計８名

2　令和５年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第１～３回）の開催日時、出席者、内容、その他

第１回　令和５年６月２２日（木）　１６：００～１７：００校長室

内部委員７名、協議委員４名、

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明

いじめ防止(学校サポートチーム)の委嘱も実施。

第２回　令和５年１１月１０日(金)　１６：００～１７：００校長室

内部委員７名、協議委員６名

学校近況報告、学校評価アンケート項目の検討、本校の現状と課題等、

いじめ防止(学校サポートチーム)、意見交換・協議、

第３回　令和６年２月８日（木）　１６：００～１７：００校長室

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第１回　令和５年１１月１０日（金）　１５：００～１６：００

内部委員２名、評価委員１名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、

今年度の学校評価の実施に向けた検討、学校評価アンケートの観点・項目の確認

第２回　令和６年２月８日(木)　１５：００～１６：００

内部委員２名、評価委員１名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

評価報告書（原案）の検討

3　学校に関するアンケート調査

(1) 学校評価の観点

「満足度」「学習指導」「進路指導」「生活指導」「ICT の活用」「学校の広報」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・１２月　全校生徒　　対象：７４１人　　回収：６６８人　　回収率：９０　％
・１２月　保護者全員　　対象：７４１人　　回収：６３１人　　回収率：８５　％
・１２月　教職員　　対象：　５３人　　回収：　４７人　　回収率：８７　％

(3)

①生徒の志望理由

例年同様、生徒及び保護者においても「校風・歴史」「学校の評判」「進学実績」の３項目が志望理由の上位となった。引き続き伝統ある「校風･歴史」を尊重し、進学指導推進校としての使命を果たしていくことが重要である。

②学校への満足度（生徒の）

生徒の肯定回答が６９．６％から７９％、今年度は８９％に肯定回答が上昇した。保護者、教職員も９０％を超えている。日々の成果と考えられ、引き続き教育活動をより一層充実させ、生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、生徒が主体的に自己実現を図れるよう指導していくが重要である。

③学習指導

項目別にみると、「熱心に教えてくれる先生が多く、知的好奇心・向上心が刺激される授業が行われている」について、生徒は昨年度の７４．６％から８３％、保護者は６０％から９５％と肯定回答が上昇した。「授業の基礎的・基本的な内容は、理解できている。」について、生徒は８２．５％から９３％に上昇し、「教科指導の工夫・改善により基礎的・基本的な事項の徹底を図っている。」について、教職員は、９５％から８９％に微減している。また、「授業のカリキュラム（教育課程）・進度・内容・レベルは、大学受験等の進路に対応している。」について、生徒８３％、保護者７８％、教職員８５％が肯定回答であった。授業内容、展開、指導については、概ね良好と言える。生徒は基礎的な内容の着している実感をもっており、教員も数値は微減しているものの基礎的な事項の徹底ため指導改善を図っている。大学受験に対応したカリキュラム（教育課程）や授業の進度及び内容等について肯定回答が占めているが、進学指導推進校の立ち位置を踏まえ、ＰＤＣＡを行っていくことが重要である。

④生活指導

「自律的な生活態度を養い、自分で考え行動する等、学校生活を支援するものになっている。」について、生徒は８２％、保護者は８５％、教職員は７２％の肯定回答であるが、生徒及び保護者は微減、教職員は１０ポイント以上減となっている。「本校は、日頃からの生徒の理解に努め、体罰やいじめなどを含め、様々な問題を見逃さず、悩みや相談に真剣に対応している。」について、

生徒は７８％、６３％、教職員９８％であり、三者での乖離が大きく、生徒及び保護者については１０ポイント以上下げている。

生活指導に関する項目において、３者の乖離があり、認識にずれがある。特に教職員は減少している。現時点で個々の教員が課題と捉えていることを洗い出し、改善策の共有を図り、組織的に指導を合わせて対応していくことが必要である。また、生徒理解に基づいた指導においては、教職員の一定の取り組みはあるが、生徒、保護者に十分な理解がされていない。教育相談体制を確認し体制あり方やＳＣの活用等、さらに情報発信することが必要である。

⑤特別活動

「学校行事は充実している」「社会の形成者としての資質・能力の育成を図れる内容となっている」について、生徒９１％、保護者９６％、教職員８６％と肯定回答が占め、良好といえる。「部活動は、主体的に参加でき、内容も充実している。」について、生徒及び保護者は８６％、教職員７４％であり、概ね良好と言える。コロナ感染症が終息に向かい、学校行事や部活動ついて大きな制限のなく実施できたことが良い影響を与えたと考えられる。今後も生徒の自主性を尊重しながら、学校全体で学校行事や部活動の活性化に取り組んでいくことが重要である。

⑥進路指導

「本校は、生徒の進路希望に対応した進路情報の収集や提供など適切な進路指導を行っている」について、生徒８５％、保護者７６％の肯定回答で、双方とも減少している。「本校は、進路・探究部と学年が連携し、３年間を見通した進路指導が行われている」について、教職員は８０％の肯定回答であった。「進路情報の活用や進路室の利用、進路相談機能の充実が図られている」について、教職員は８５％の肯定回答であった。進路指導について、肯定回答の割合が高いため、数値の減少は回答時の誤差の範囲ではあると考えられるが、継続して生徒への進路情報などを適切に提供し、生徒の進路希望に対応した進路指導の充実を図ることが重要である。

⑦その他

・ＩＣＴ活用

「教育活動（授業・ホームルーム等）におけるICT（情報通信技術）の活用は、有効であり、充実している」について、生徒は７３％、教職員は６７％の肯定回答であった。生徒の肯定回答の割合は昨年度と同程度であるが、教職員は２０ポイント以上減少している。ＩＣＴを活用において、一定数の教職員が課題と捉えており、校内研修会の実施や外部研修参加による伝達講習等を行うなど、有効な活用の仕方について、組織的に研修や実践を重ねていくことが必要である。

・防災関係

「学校は、避難訓練や防災講話など、防災や安全に関する指導を積極的に進めている」について、生徒の肯定回答は、７０．２％から５９％に減少し、半数近い生徒が課題としている。自由意見欄の記載内容を含め、防災支援隊を機能させ、生徒の主体的な防災活動を取り入れていく等、当

事者意識の醸成や実践的な取り組み等が必要である。

・案内・情報提供

「ホームページや Classi 等により、学校からの情報提供を行っている（情報提供は、充実している）」について、生徒は８６％、保護者は９４％、教職員は８７％の肯定回答であり、概ね良好として捉えることができる。

・読書活動

「生徒が本や電子書籍に触れ、読書する機会を増やすように努めている」について、生徒は４５％、保護者は４８％、教職員は８５％の回答であり、生徒及び保護者と教職員に大きな乖離があり、学校は取り組んでいるが、生徒及び保護者に価値づいていないと捉えられる。日常の図書館利用に加え、ビブリオバトルの活性化や読書月間の働きかけの工夫等、計画的に読書活動を推進していく必要がある。

・国際理解教育

「学校の国際理解教育の取り組みは、充実している」について、生徒は６７％、保護者７１％、教職員７０％の肯定回答であった。今後ますます国際感覚や共生意識の醸成が求められていることを踏まえ、さらに充実させていくことが重要である。

・環境整備

「学校は、施設の清掃など校内美化に努め、授業や生活がしやすいように整備している」について、生徒は６７％、教職員は６２％の肯定回答になっており、微増している。校舎の老朽化、大規模工事はあるが、可能な限りの対策を講じていくことが重要である。

・説明、対応

「学校は教育方針（教育目標等）や学校の取組を分かりやすく保護者に伝えている」について、保護者は９１％の肯定回答であった。「学校は、保護者への連絡や意志疎通を積極的に行い、要望に対して迅速に対応している（窓口業務含む）」について、保護者は８２％の肯定回答であった。保護者の不信感につながりやすい内容であり、引き続き丁寧な説明や連絡、対応をしていくことが重要である。

・学校経営、広報

「本校は、学校経営計画に沿い、各分掌は組織的な学校運営を行っている」について、教職員は８３％の肯定回答であった。「中学校（中学生、保護者等）向けの広報活動は、充実しており、成果をあげている」について、教職員は６７％の肯定回答であった。組織的な学校運営について、概ね良好と言えるが、ＰＤＣＡを繰り返し、運営を盤石なものに近づけていくことが重要である。

・働き方

「国や東京都が働き方改革に取り組んでいる」について、保護者は４９％、教職員が２６％の

回答であった。業務の見直しや改善を組織的に行い、働き方改革に繋げていく必要がある。

・自由意見より

保護者の自由意見内に、三者面談やクラス懇談会等の機会の創出を望む意見が散見される。小中学校は地域にあり、幼少期からともに過ごしてきた生徒が多いため、保護者間のつながりも強い。さらに、発達段階から保護者の関わる場面が多く、そうした機会が学校の様子等の理解に繋がっていた。高校は地域外の学校に進学ことも多く、保護者の関わる場面も激減する。高校そのものに行く機会が少ないため、心配や不安を感じる保護者も少なくない。教員の業務負担を考慮した上で、保護者の不安を軽減させ、理解や協力をスムーズに得ながら教育活動が円滑に進むよう、クラス懇談会や三者面談等を適宜行い、教員保護者間のみならず保護者同士が繋がれる場を計画的に設定していくことが必要である。

4　学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校連絡協議会を実施して得られた成果

ア　学校評価アンケートの分析が正確かつ詳細に行われており、学校を客観的に評価することが可能となっている。

イ　コロナ感染症が５類に移行し、活動制限が緩和され、例年以上に、生徒たちは部活動や学校行事に積極的に取り組んだことが分かった。

ウ　学習指導や学校行事について、三者ともに理解や共感が得られていることが分かった。

エ　Classi 等による学校からの情報提供への満足度が高いことがわかった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

ア　「入学したことに満足している」の回答は３者ともおおむね 90%に達していることから、本校への満足度は高い。より一層、本校の教育活動を充実させていく必要がある。

イ　引き続き、学校ホームページや Classi をはじめとする各種通信、または保護者会や父母と教師の会の会合などを通じて、より一層、丁寧に学校の取組みを発信していく必要がある。

ウ　オンライン教育の推進などの学校改革が推進され、教職員の ICT 活用技術も向上してきたが、今後も ICT 等に関する研修などを積極的に行い、教職員のさらなる ICT 活用技術の向上に取り組む必要がある。

エ　コロナ感染症が５類に移行し、保護者等が来校しやすい状況になった。教員保護者間のみならず保護者同士が繋がれる場を計画的に設定していく必要がある。

5　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善（学校経営計画への反映）

(1) 学校運営

ア　学校経営計画の具現化のための組織的な学校運営を行う。

イ　生徒の希望進路実現のため、進路・探究部を中心としたキャリア教育をさらに推進する。

ウ　教育活動の保護者への確実な伝達や相互理解の充実に努める。

エ　ホームページの充実・最新情報への更新、教職員全体による広報活動を充実させる。

(2) 学習指導

ア　教科を中心に日常的な情報交換（ＯＪＴ）や相互の授業観察の実施等授業研究を行い、ICT 活用技術の向上などもふくめ、個々の教員の力量を高めていく。

イ　自習室の活用や講習会の適切な実施等により、自学自習の態度・習慣を身に付けさせるとともに、対話的で深い学びのための方策について一層の工夫をする必要がある。

ウ　学校図書館や図書委員会のビブリオバトルをはじめとした読書活動を推進し、引き続き生徒の未読率減少に努める。

(3) 特別活動

ア　学校行事について、生徒の自主性を尊重しながらも、完成度が高まるように教職員が指導する。

イ　部活動について、生徒の自主性を尊重しながらも、成果をあげられるように教職員が支援する。

(4) 生活指導

ア　生徒に、教員の支援の意図を正しく理解させる指導を継続する。

イ　「生徒に考えさせる指導」、「時間を守る」、「身だしなみを整える」、「あいさつをする」等の意識・姿勢の育成とともに、帰属意識を育てる生活指導を継続する。

(5) 進路指導

ア　進学指導推進校として、生徒の進路希望を高いレベルで実現できるような支援を継続する。

イ　低学年から進路指導室を利用する機会を拡大するよう進路指導を工夫する。

ウ　保護者へ進路情報などを適切に提供し、生徒の進路希望に対応した進路指導を継続する。

エ　保護者との面談の機会を設けて、情報交換を行い、生徒の自己実現を図る。

(6) 健康・安全

ア　生徒の心身の健康を保持・促進するために、教育相談活動を充実させる。スクールカウンセラーを有効活用するため、全員面談の充実や教育相談の周知方法を工夫する。

イ　生徒の生命の安全確保に向け、共助の視点も取り入れた効果的な防災訓練を実施する。

6　「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数　８名

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
7					

（１名未回収）

7　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

なし